

## 第4節 調査研究

館の機能を充実し、美術の情報センターとしての役割を担って、県民の芸術文化の向上に寄与するために、さまざまな機会を捉えて調査研究を進めた。

### 1 調査研究事項

- ① 作家 ② 作品 ③ 美術史 ④ 保存  
⑤ 教育普及 ⑥ 展覧会 ⑦ 運営 ⑧ 美術館利用者の動向  
⑨ その他

### 2 観覧者へのアンケート結果

調査事項	企画展第1部	企画展第2部	企画展第3部	企画展第4部	文化の日無料開放
1 居住地	%	%	%	%	%
a 県北	57	73	50	62	80
b 県中	11	13	13	10	6
c 県南	1	1	0	2	1
d 会津	4	10	10	2	2
e 相双	5	2	8	2	2
f いわ	1	1	5	6	3
g 県外	21	0	14	16	6
2 性別	%	%	%	%	%
a 男	42	52	50	46	58
b 女	58	48	50	54	42
3 年代	%	%	%	%	%
a 10才代	18	13	14	13	ほぼ均等に用紙を配布した。
b 20才代	25	33	23	37	
c 30才代	23	14	17	13	
d 40才代	20	28	19	18	
e 50才代	10	12	17	12	
f 60才以上	4	4	10	7	
4 職業		%	%	%	%
a 会社員		13	17	18	19
b 公務員		17	22	15	15
c 教職員		10	6	7	9
d 自由・サービス業		5	6	3	4
e 農林業		0	0	4	1
f 商工業		0	0	0	2
g 主婦		18	19	19	15
h 学生・児童等		26	16	27	22
i その他		11	14	7	13
5 来館回数		%	%	%	%
a はじめて		63	73	49	73
b 2回目		26	10	23	17
c 3度以上		11	17	28	10
6 何で知ったか	人	人	人	人	
a ポスターで	21	47	22	21	
b 知人から	26	18	13	24	
c 新聞から	28	18	14	11	
d テレビで	14	14	3	13	
e ラジオで	10	1	0	2	
f その他	36	15	17	20	

## 第5節 普及事業

美術館は、展覧会のほか多岐にわたる事業によって、美術への関心を深め、鑑賞の眼を養い、また、創造への誘いの場となるよう、つぎのような事業を行った。

### 1 講演会の開催

#### (1) 開館記念講演会

「日本洋画の出発と展開」 7月29日 (150人入場)  
嘉門安雄 プリヂェストン美術館長

#### (2) 定期講演会

「関根正二とその時代」 9月24日 (140人入場)  
匠秀雄 神奈川県立近代美術館長

#### (3) 企画展講演会

① 「人間像にみる現代絵画の展望」 8月5日 (130人入場)  
三木多聞 文化庁企画官・美術評論家

② 「ミロの芸術」 9月15日 (130人入場)  
東野芳明 多摩美術大学教授

③ 「日本の現代版画」 3月17日 (90人入場)  
陰里鉄郎 三重県立美術館長

#### (4) 公開シンポジウム

11月3日 (200人入場)  
「—創造の場・今—」のテーマにより「現代東北美術の状況展」の関連事業として開催し、パネラー及び一般参加者の活発な意見の交換があった。

(司会) 三木多聞 文化庁企画官・美術評論家  
(パネラー) 「現代東北美術の状況展」出品者  
高山登 仙台市在住  
田辺和郎 横浜市在住  
橋本章 伊達郡伊達町在住  
村上善男 弘前市在住

### 2 映画会の開催

- ① 「ルーヴル美術館」 9月2日 (150人入場)  
② 「ミロの世界」 9月8・9・16日 (160人入場)  
③ 「女だけの都」 10月28日 (80人入場)  
④ 「赤い風船」 12月16日 (110人入場)  
⑤ 「ルーヴル美術館」(再) 3月24日 (110人入場)

### 3 実技講座の開催

- (1) 親と子の美術教室 小学生とその親を対象に15組  
① 「粘土でつくる」(1・2年生と親) 昭和59年8月3日  
② 「絵巻物をつくる」(3・4年生と親) 8月4日  
③ 「針金と粘土でつくる空中遊泳」(5・6年生と親) 8月5日

講師 梶田幸恵 宮城教育大学助教授

#### (2) 実技教室

- ① シルクスクリーン教室 一般初心者対象 (15名)  
9月1日～9月29日の各土曜日連続5回

講師 丸山浩司 福島大学講師

- ② 彫塑教室 一般初心者対象 (15名)  
9月2日～9月30日の各日曜日連続5回

講師 白沢菊夫 福島大学助教授